

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 (ユニット1)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富712-1		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172600559&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・18名の入居者様が、穏やかに過ごせるように一人一人に合ったケアを目指し取り組んでいます。庭で花の手入れをしたり、畑で野菜を作り、食事のなかで新鮮な野菜を食べていただいたり、日常生活で楽しんでいただけるように工夫しています。また、看護師が常時いるため、体調が急変し経管栄養が必要になったり、終末期になられた方でも引き続き入居していただけます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームを立ち上げた管理者夫婦の「自分たちが老いた時に自分らしく時間を過ごしたい、一緒に笑いあえる人になりたい」という思いから「穏やかな信頼ある介護」が職員全体に定着し、利用者も個々の体力に合わせた役目を担い、積極的に運営されている。子育て中の職員には、子どもを連れて勤務できる体制も配慮され、互いに学校の行事や家庭の用などには勤務の組み替えを行うなど、職員の働く環境の整備がされている。管理者は地域グループホームの中心的な役割を担い、様々な取り組みを提案し実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニット1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して認識し地域の中で、生活ができるように支援をしている。	利用者は地域に密着したホームで、当たり前の生活を「家族の一員」として日々過ごすことができるよう、理念を柱にして、利用者の権利を尊重し、信頼のもとに介護を提供している。管理者と職員は理念を共有し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつを基本として、地域の一員としてつながりが持てるように努めている。また、近所の方から野菜をいただいたりしている。	管理者は地元住民であり、開設以前から馴染みの関係はできており、ホームは地域の一員として位置づけられている。管理者の考えから、ホームの日用品やその他必要な物は近所の店を利用し、ホームを理解してもらうよう努めている。	さらに、地域住民が気軽に福祉制度や介護保険等相談ができる窓口として活用できるように、受け入れ体制の確立を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、運営推進会議などで話をしたり、また地域の方から意見をいただいたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生委員、他、参加者の方に現在の状況を報告し、意見を求めサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、町内にある他のホームの管理者や職員の出席もあり、逆にホームから他の運営推進会議に参加する場合もある。職員が他を見学したり、意見交換を行い、地域全体のグループホームの資質向上に運営推進会議が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加しサービスの取り組み等を報告し、協力が得られるようにしている。	地域の5ヶ所のグループホームが、行政と共に会議を年2回開催し、悩み事や課題解決に向け話し合いや情報交換を行っている。他のホームと共にグループホームの理解に向け、行政の協力で掲示等により町民に向け啓発活動を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギは、いつも開けており自由に外に出られるようにしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除のマニュアル等があり、職員研修が実施されている。身体拘束が求められる場合には、家族と話し合い、最小限度に留めている。理念である人権を尊重し、虐待防止、個人の自由を束縛することのないケアに日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員のストレスがないかをよく聞き、良い環境で、仕事ができるように努めている。		

岐阜県 グループホームめぐりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要な時は、関係機関と連絡をとり、対応できるようにしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時の際は、契約内容を説明し、又 利用中の利用金改定等は、理由など文章で説明をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や電話等で、いつも意見・要望を聞くようにしている。	利用者の家族にホームから便りを送付し、利用者の状態を報告している。家族の意見は、訪問時に職員がどんなに忙しくても時間をかけ聴くよう努めている。意見や要望には敏速に対応するシステムになっている。	ホームからの一方的な発信でなく、訪問できない家族の意見を聞く機会や方法を検討し、家族との連携が保たれる関係づくりを検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、職員の意見を機会を設け、それをよく理解し、支援をしている。	管理者は職員が不満や不安があるようでは利用者に満足なケアはできないと考え、定期的な職員会議で思いや意見を極力吸い上げている。管理者と職員との関係は良好であり、ホーム全体が暖かい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望の時間、曜日に働けるように配慮している。各自が向上心を持って、働けるよう職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあった、内外の研修を受けるように薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設への勉強会や研修会、講演会に参加する機会を作っており、サービスの質の向上を目指している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや面会で希望を聞き、ご本人の要望にあったケアができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会で家族の方の要望、不安などを聞き、安心してサービスを受けていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にアセスメントをして、支援してほしいこと、要望などを聞き入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に軽作業をすることを心がけており、役割をもって生活していただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か相談したい時や、変わった出来事等がある時はご家族に電話報告をしている。また、定期的に状況報告書を家族に送付し、利用者様の様子、要望等を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な外出により、馴染みの場所などに行ったりしている。	馴染み人の訪問は気軽に受け入れており、時には家族の協力を得て実現する場合もある。初詣にはコース別に希望を取り、希望の神社に同行している。利用者は地域の人が多く、元々馴染みの関係であり、共通の話題で会話が弾んだり、馴染みの喫茶店などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業、レクリエーションを通じ、利用者様同士が、仲良くできるよう見守りをしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退去となられても、家族の事情により、支援の依頼があった場合、できる限りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに話しかけ、希望にそえるよう努めている。また、職員間でその希望を協議できる時間をつくるようにしている。	寄り添うように話しかける職員と利用者の場面が多い。利用者は自分の思いを気軽に職員に伝え、職員は利用者の生活歴を大切にしている。理容師の資格を持つ職員により、月1回の理容を行っており、自分の希望を伝え、思いのまま気持ちの良い時間を過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、今までの生活の様子を聞き、サービスに提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックにより状態を把握し、自身でできることは、していただくよう見守りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人の気持ちを大切に介護計画を指し、話し合っている。また、モニタリングを繰り返し、現状を把握して介護計画を作成している。	担当制ではなく、利用者18名を職員全体で対応することを原則としている。利用者一人を複数の職員が目で見ること、新たな発見やアイデアが生まれる場合もある。全職員で話し合い、現状を把握し、定期的、また、不定期的に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングの記録をとり、職員が必ず目を通し、入居の方の様子、介護の方法など共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の変化に対応し、利用者様の希望など取り入れることができ、満足していただけるようにしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方に合わせて、地域の機関を、利用している。2月には、公民館まつりに作品を出展している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、主治医に往診をしてもらっている。緊急時にも指示をもらい、ご家族へすぐ連絡している。	家族の同行により希望のかかりつけ医にも受診しているが、2週間に1回、協力医の定期往診が行われている。往診前に全利用者の簡単なバイタルチェックの結果が医師に報告され、医師は事前に利用者の状況を把握している。看護師も3人おり、利用者の健康管理、急変時の対応についても安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	胃ろうの方が、4名みえるので、看護師が、日勤でお世話をしている。職員も少しでも利用者様の異変に気付いたら、すぐ診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された時は、家族、病院の関係者(医療ソーシャルワーカー等)、本人と安心して早く退院できる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や重度化する恐れがある時は、ご本人、ご家族と話し合い今後の希望を聞いている。また、実際重度化した時は、主治医、看護師、職員で連携をとりターミナルケアに向けて取り組んでいる。	「看取りに関する指針」を入居時に説明し、同意書をもっている。現在胃ろうの利用者が4人入居しているが、あくまで本人や家族の思いや希望を踏まえ、医師との連携を欠かさず、暖かい支援が行われ、ホームで生活している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変などの時は、慌てず応急処置、応急手当をするなど、職員全員ができるよう看護師より指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て防災訓練を行っている。(消火器の使い方、避難経路の確認など)	年2回、消防署の協力により防災訓練が実施され、避難誘導、避難場所も徹底し、備蓄も整えられている。管理者・職員は防災に対する意識も高く、スプリンクラーが設置された。	さらには、地域の協力を依頼し、夜間を想定した訓練の実施を検討されたい。

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方に合う様に、お部屋作り、着ていただく衣類、食事時間など職員全員が気配りしている。	理念である利用者の権利、人格を尊重する対応のため、職員を対象に接遇研修を行っている。言葉づかい、物静かな対応、笑顔、すべてが常に利用者側に立った対応であり、主人公は利用者であるという考えが行きわたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々のご本人の思いを大切にするように支援している。(例、外出の要望、食事の献立、ハガキを出す手伝い等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や好みに合わせて支援をしている。(ビーズ通し、畑仕事、庭の草取りなど職員と一緒にやっている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた季節の身だしなみができるように、支援している。女性は、化粧水、乳液、リップクリーム(色つき)を使われ毎日を楽しんでいただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者様は、豆のすじをとったり、畑で大根を取ったり等していただいている。皆で作った野菜を、喜んで食べてもらっている。	職員は利用者と共に食事をとり、共通の話題に花が咲く。食事に遅れた職員に利用者が「冷めてしまったね」など互いに思いやる姿勢がある。キッチンが広く、利用者も動きやすく、配膳や下膳など楽しく手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調などに合わせて、量、栄養バランスを常に考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後の口腔ケアは、お一人おひとりに合わせて行っている。(流動食の方は、食前、食後に行っている。)		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は定期的に声かけなどをして行うようにしている。無理をせず、嫌がられる時は、時間をあけて気持ちよくトイレへ行けるように心がけている。	排泄チェック表があり、一人ひとりに合わせた無理強いをしない声かけが行われている。昼間は尿パット、夜は紙オムツを利用する人もあるが、できる限り自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分をとるようにして、おなかのマッサージを行ったりしている。個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた曜日や時間に入浴できるようにしている。お湯の温度や量も、個々にそった支援をしている。	入浴は週2回、午前の時間帯を基本としているが、希望に添った入浴も行われている。利用者の健康状態にあわせ、清拭・足浴なども支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望にそって休息している。生活リズムを把握し、良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	点眼や塗り薬、飲み薬の飲み忘れに注意をしている。また、それによる副作用にも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事をしたり、音楽に合わせて歌を歌ったり、リズムをとって楽しんでいただいている。ボール遊びなど、楽しみながら体を動かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、初詣、お花見などに出かけたり、外食もしている。また、ご家族と一緒に買い物や外食をさせていただいているように支援している。	広い敷地には野菜畑や花壇がつくられ、大きく育った木の下には食事もできる大きなテーブルが置かれている。居室の周りにはウッドデッキが設けられ、自然に囲まれた環境を活かし、外出の一つの手段として活用している。散歩、外食や買い物など支援している。	職員の提案で温泉旅行が計画されているが、家族にも参加を呼びかけ、家族と共に外出支援を行うよい機会とされたい。

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的にご利用者様自身で、お金を持って職員も一緒に買い物へ行き、お菓子や日用品などを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が書かれた手紙を、ポストへ出しに行ったり、希望によって電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を保っている。また、お正月には正月飾りなど、季節感のある空間作りを工夫している。	地元の建築資材を活用し、行政より表彰された建物は天然木が多く使われ、ぬくもりが感じられる。吹き抜けの高い天井は広がりのある空間を演出している。リビングや出窓には、季節の花や写真、手作りの額が飾られ、点在するソファは利用者の安らげる場所となっており、楽しげに語り合い、居室で過ごす利用者は少ない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った、ご利用者様同士の部屋の戸を開けて、顔が見えて話ができるようにしている。また、食事やお茶の時間を少人数で楽しんでいただいたり、気分にあった居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が自宅で使っていた物などを、居室で今まで通り使えるようにしたり、好きな花を飾ったりしている。	使い慣れた馴染みの物が設置され、利用者の希望に添った居室が家族と共に作りだされており、どの部屋も個性豊である。夜間は職員が居室扉を開いて安否確認をしなくてもいいように、扉に小窓が設けられており、「ここは利用者の家」を意識したプライバシーが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の部屋の扉の色を工夫し、識別できるようにしている。また、場所が、わからない方のために、戸に大きくはっきり書いたりして、自立を支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家(ユニット2)		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富712-1		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(ユニット2)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して認識し地域の中で、生活ができるように支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつを基本として、地域の一員としてつながりが持てるように努めている。また、近所の方から野菜をいただいたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、運営推進会議などで話をしたり、また地域の方から意見をいただいたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生委員、他、参加者の方に現在の状況を報告し、意見を求めサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加しサービスの取り組み等を報告し、協力が得られるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギは、いつも開けており自由に外に出られるようにしている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスがないかをよく聞き、良い環境で、仕事ができるように努めている。		

岐阜県 グループホームめぐりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要な時は、関係機関と連絡をとり、対応できるようにしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時の際は、契約内容を説明し、又 利用中の利用金改定等は、理由など文章で説明をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や電話等で、いつも意見・要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、職員の意見を機会を設け、それをよく理解し、支援をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望の時間、曜日に働けるように配慮している。各自が向上心を持って、働けるよう職場環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあった、内外の研修を受けるように薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設への勉強会や研修会、講演会に参加する機会を作っており、サービスの質の向上を目指している。		

岐阜県 グループホームめぐりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや面会で希望を聞き、ご本人の要望にあったケアができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会で家族の方の要望、不安などを聞き、安心してサービスを受けていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にアセスメントをして、支援してほしいこと、要望などを聞き入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に軽作業をすることを心がけており、役割をもって生活していただけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か相談したい時や、変わった出来事等がある時はご家族に電話報告をしている。また、定期的に状況報告書を家族に送付し、利用者様の様子、要望等を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な外出により、馴染みの場所などに行ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業、レクリエーションを通じ、利用者様同士が、仲良くできるよう見守りをしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退去となられても、家族の事情により、支援の依頼があった場合、できる限りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに話しかけ、希望にそえるよう努めている。また、職員間でその希望を協議できる時間をつくるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、今までの生活の様子を聞き、サービスに提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックにより状態を把握し、自身でできることは、していただくよう見守りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人の気持ちを大切に介護計画を目指し、話し合っている。また、モニタリングを繰り返し、現状を把握して介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングの記録をとり、職員が必ず目を通し、入居の方の様子、介護の方法など共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の変化に対応し、利用者様の希望など取り入れることができ、満足していただけるようにしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方に合わせて、地域の機関を、利用している。2月には、公民館まつりに作品を出展している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、主治医に往診をしてもらっている。緊急時にも指示をもらい、ご家族へすぐ連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	胃ろうの方が、4名みえるので、看護師が、日勤でお世話をしている。職員も少しでも利用者様の異変に気付いたら、すぐ診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された時は、家族、病院の関係者(医療ソーシャルワーカー等)、本人と安心して早く退院できる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や重度化する恐れがある時は、ご本人、ご家族と話し合い今後の希望を聞いている。また、実際重度化した時は、主治医、看護師、職員で連携をとりターミナルケアに向けて取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変などの時は、慌てず応急処置、応急手当をするなど、職員全員ができるよう看護師より指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て防災訓練を行っている。(消火器の使い方、避難経路の確認など)		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方に合う様に、お部屋作り、着ていただく衣類、食事時間など職員全員が気配りしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々のご本人の思いを大切にするように支援している。(例、外出の要望、食事の献立、ハガキを出す手伝い等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や好みに合わせて支援をしている。(ビーズ通し、畑仕事、庭の草取りなど職員と一緒にやっている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた季節の身だしなみができるように、支援している。女性は、化粧水、乳液、リップクリーム(色つき)を使われ毎日を楽しんでいただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者様は、豆のすじをとったり、畑で大根を取ったり等していただいている。皆で作った野菜を、喜んで食べてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調などに合わせて、量、栄養バランスを常に考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後の口腔ケアは、お一人おひとりに合わせて行っている。(流動食の方は、食前、食後に行っている。)		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は定期的に声かけなどをして行うようにしている。無理をせず、嫌がられる時は、時間をあけて気持ちよくトイレへ行けるように心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分をとるようにして、おなかのマッサージを行ったりしている。個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた曜日や時間に入浴できるようにしている。お湯の温度や量も、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望にそって休息している。生活リズムを把握し、良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	点眼や塗り薬、飲み薬の飲み忘れに注意をしている。また、それによる副作用にも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事をしたり、音楽に合わせて歌を歌ったり、リズムをとって楽しんでいただいている。ボール遊びなど、楽しみながら体を動かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、初詣、お花見などに出かけたり、外食もしている。また、ご家族と一緒に買い物や外食をしていただいているように支援している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的にご利用者様自身で、お金を持って職員も一緒に買い物へ行き、お菓子や日用品などを買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が書かれた手紙を、ポストへ出しに行ったり、希望によって電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を保っている。また、お正月には正月飾りなど、季節感のある空間作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った、ご利用者様同士の部屋の戸を開けて、顔が見えて話ができるようにしている。また、食事やお茶の時間を少人数で楽しんでいただいたり、気分にあった居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が自宅で使っていた物などを、居室で今まで通り使えるようにしたり、好きな花を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の部屋の扉の色を工夫し、識別できるようにしている。また、場所が、わからない方のために、戸に大きくはっきり書いたりして、自立を支援している。		